



大宮西中学校は創立50周年を迎えます
～つないできた 愛 これからもずっと～

藤花だより

令和6年度6月号
令和6年5月31日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「気まずい思い」

～何気ない日常を価値あるものとして大切にする（いじめ撲滅月間）～

校長 森角 由希子

梅雨入りを前に、蒸し暑く、うっとうしい季節となってきました。気分が滅入ってしまいそんな天候が続くからこそ、お互いすがすがしい風が通り抜けるようなあいさつを心掛けたいと思うこの頃です。

さて、私の中学時代のことで恐縮ですが、風邪をひいてしばらく学校を休んだ後の登校は、少し緊張がありました。自分が休んでいる間に、学習が遅れてしまっていることや、仲間関係に変化はないか、不安がありました。登校してみると、いつも仲の良いグループの中で、何かぎくしゃくしていることに気付きました。お昼の時間になると、私と同じグループでいつも一緒にお弁当を食べていたAさんが、その輪から離れ、他のグループと、お弁当を食べ始めました。私は「どうして?」と思いましたが、他の仲間に理由を尋ねる勇気がなく、Aさんに声を掛けることもできませんでした。

Aさんとは、私が風邪で学校を休む前から、二人で出かける約束をしていました。学校ではAさんと直接話をすることはありませんでしたが、当日私は約束の場所へ向かいました。一足早く待っていたAさんが、「来てくれないかと思った。」と、ポツリと言いました。私は「それはそれ（グループ内での出来事）これはこれ（私とAさんとの人間関係）約束だし。」と言いました。携帯電話の無い時代。相手の気持ちを確認せず、複雑な思いを抱えたままで、よくぞお互い当日顔を合わせることができたなと思います。しかし、「Aさんが別の仲間とお弁当を食べなければならなかった理由を、なぜ友達に確かめなかったのか」「なぜ、Aさんに『一緒に食べよう』といえなかったのか」「Aさんに『何があったの?』となぜ声を掛けなかったのか」と、私は自分の居場所を守るための『保身』に後悔していました。

『傍観者』の立場は、いじめに加担していることとおなじなのです。

その後、一連の出来事については、何がきっかけだったのか、お互いに歩み寄り、再び同じ仲間でお弁当を食べるようになったと記憶しています。けれども私にとっては、記憶の引き出しの奥底にそっとしまい込んでいたのに、ふとした瞬間にぬっと顔を出すような、まるでどの奥にささってなかなか取れない魚の小骨のような違和感が、心に引っかかっているのです。

さいたま市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と定め、本校でもいじめ撲滅に向けた取組の実施をしています。この時期は、生徒が内面にストレスを抱え込みやすく、理由もなく不安になったり落ち込んだりし、衝動的な行動が増える傾向が見られております。また、いじめの認知件数が増加してくる時期でもあります。

だんだんと、あいさつ等の声が響いています。また、開始のチャイムが始まる前に、着席をし、授業の心構えを作っています。当たり前の姿のように感じますが、その当たり前の意識の中に、誰もが安心して生活できる理由があります。何気ない日常を築き、皆さん一人ひとりの意識の中に、意味あるものや価値あることを皆で大切にしている毎日があるからです。そのような温かな心が、安心して学校生活を送ることができる尊い日々であることに、大宮西中生の皆さんには誇りをもってほしいと思います。

